

平成 20 年度第 2 回京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議 議事要旨

日時：平成 20 年 11 月 26 日(水) 14:00～15:30

会場：川崎市産業振興会館 第 6 会議室

主な議事内容

1 各部会の進捗状況等報告

(1)「パイプライン等の連携・活用による原料、副生成物、未利用留分の有効活用」部会

- ・ナフサ、灯油、ブテン、燃料、水素の 5 つに関して主に検討している。

既存の制約にとらわれずにビジネスチャンスなどを確認し、その後、それぞれのスキームの具体化に向けて、制約条件、クリアすべき事項について検討を行った。

- ・取組みを進める上では、本社の供給部隊を含めて協力していく案件もあり、事業連携に規模の大小はあるものの、それぞれ鋭意検討を継続し、情報交換を深め、制約条件をクリアしながら、実現に向けて進めていきたい。

- ・具体的なコストや事業化のための補助について、具体的な整理までは至っていない。これまでの検討内容を踏まえ、行政からのサポートとして、どのようなものがあるのか、具体的な要望事項、検討事項について詰めていきたい。

(2)「石油残渣からの DME の製造と高度利用」部会

- ・石油会社では、重質油が比較的余剰傾向にあり、重質油からオレフィンを作る際の技術、経済性、事業化に関する課題等について、メンバーで、勉強してきた。DME そのものを燃料として使うこともあるが、全てを石油化学製品にすることで検討を進めている。

- ・原料からそれぞれ何がどれくらい作られるか、製品の値段と原油の値段の変化、製造のためのプロセスフローについて、データ収集やヒアリングを行った。

- ・これらを元に検討し、全体を構成する要素プロセスを選定、コスト計算をした。また、概算で設備コストなどを算出。経済性を考える上では、色々な条件があり、これも併せて検討した。

- ・検討を進める上で文献調査や技術を有する企業からの聞き取り調査等を実施した。

- ・物質収支、ユーテリティ収支計算、要素プロセスの選定は、資料のとおり。

- ・全体のプラント構成や運転コストの見直し、原料、製品、環境負荷、設備コストをどう見ていくか、経済的に成立する条件等、今後、検討する。

- ・実際の実施に当たっては、既存の状況で可能かということになる。今後は、事業として成立するか、課題、事業化のための条件等について、資源の有効活用、CO2 対策を含めて、まとめていきたい。

(3)意見交換会（9 月 5 日開催）結果報告

企業メンバーを対象とした意見交換会を開催。

現在、行っている検討の中で、今後とも継続していく必要があるテーマについて認識の共有化を行った。

また、メンバーから環境に配慮した取組みの紹介、コンビナートでのロボットテクノロジーに関する情報提供を行った。

2 今後の検討会議の進め方について

- ・この1年間で各社からアイデアを出し合い、話し合いを進めてきたが、今後は具体性を持って絞り込んでいく必要がある。
- ・検討会議の運営について、今一度しっかりと考える必要がある。
- ・本社への合意形成の段取りなど、各社いろいろと今後の進め方について意見があると思うので、年度末の検討会議開催前に意見交換会を行い、各社間で具体的な意見を出して頂く。
- ・千葉など他のコンビナートでの情報をインプットして検討会議運営の参考にしたい。

3 その他・情報提供

- ・京葉や水島コンビナート等での取組概要紹介
- ・プラントでのロボットテクノロジーの活用

以上